

ルイズ・ブルジョワ展

地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ

森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階） 24.09.25～25.01.19



「ルイズ・ブルジョワ」(1911～2010)は、パリ生まれの20世紀を代表するアーティストで、70年にわたるキャリアのなかで、インスタレーションに、彫刻に、ドローイング、絵画などさまざまなメディアを用いながら、男性と女性、受動と能動、具象と抽象、意識と無意識といった二項対立に潜む緊張関係を探究し、対極にあるこれらの概念を比類なき造形力により作品に共存させている。

彼女は、記憶や感情を呼び起こすことで、普遍的なモチーフへと昇華させ、希望と恐怖、不安と安らぎ、罪悪感と償い、緊張と解放の相反する感情や心理状態を表現し、さまざまなアーティストに多大な影響を与えてきた。

さまざまなアーティストに多大な影響を与えている「ブルジョワ」の芸術は、現在でも世界の主要美術館で展示され続けていて、日本では27年ぶりで国内最大規模の個展となる本展では、「100点強の作品群」を紹介している。



《ママン》 1999/2002年
ブロンズ、ステンレス、大理石 9.27×8.91×10.23 m
所蔵：森ビル株式会社(東京)



《無題(地獄から帰ってきたところ)》 1996年 刺繍、ハンカチ 49.5×45.7 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS) New York



撮影：マクシミリアン・ゲッター
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York



撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York